

## バイオマス活用アドバイザー プロフィールシート

	<b>【名前】</b> 渡邊 大介
	<b>【現職（所属）】</b> 株式会社 アレフ エコチーム リーダー
<b>【略歴】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2004年3月 北海道大学大学院 農学研究科 生物資源生産学部 修士課程終了</li> <li>・ 4月 株式会社 アレフ 入社                      自社レストラン・食品工場から排出される有機性廃棄物（バイオマス）のリサイクルを担当。（使用済み竹箸の炭化リサイクル、生ごみの堆肥化・バイオガス化、廃食用油のバイオディーゼル燃料化、グリセリンの燃料利用など）</li> <li>・ 2009年1月 バイオマス利活用総合講座終了、バイオマスアドバイザー初級認定</li> <li>・ 2010年1月 バイオマスタウンアドバイザー認定（和歌山県高野町を担当）</li> </ul>	
<b>【得意分野】</b> <p>                     北海道の恵庭市で、自社レストランやお客様、地域の人たちから集めた天ぷら油をバイオディーゼル燃料(BDF)などにリサイクルする活動に携わっています。作ったBDFは自社で利用するほか、地域の方々にも使って頂いています。また、天ぷら油の回収には小学校や幼稚園なども協力してくれており、BDFプラントは総合学習の場にも活用して頂くなど、地域と一体となった活動を行っています。また、自社で手がける地ビール工場から出るビール粕のバイオガス化を行っています。ビール粕やグリセリン（BDFの副産物）などからバイオガスを生産。バイオガスとBDFで自家発電を行い、発酵後の消化液は隣接する「えこりん村」（恵庭市）の採草地の肥料に利用する、資源循環モデルに取り組んでいます。                 </p>	
<b>【バイオマス利活用に関する取組・一言コメント】</b> <p>                     バイオマスは広く浅く存在しているため、原料を収集するには多くの工夫が必要だと感じています。また、バイオマスを利用することは、化石燃料など従来の製品と比べて簡単ではなく、とても手間がかかります。しかし、バイオマス利活用に成功することで、その地域にしかない製品を創ることができるとともに、世代を超えた人たちのつながりが太くなっていく、地元一体となって取り組むことができると信じています。調査研究のみならず、地域・現場に即した方法で様々な問題を解決し、みなさんと一緒にバイオマス利活用・資源循環の実現に向けて取り組んでいきたいと考えます。                 </p>	

